

病診連携通信

大澤 清孝 副診療部長が病診連携室長になりました

前任者の増田先生が任期満了となり、大澤清孝が平成21年4月1日付けで病診連携室長を拝命いたしました。当院は平成17年4月1日より群馬県知事から地域医療支援病院として承認され、地域医療の充実を目指して業務を遂行してまいりました。

登録医の先生方からのご指導、ご協力を賜りながら3年の時が経ち課題も明瞭になってきております。今後は地域の先生方との意思疎通が図ることができる場を作り、さらなる地域連携強化に努めてまいります。特に、研修会やCPC、地域連携パスなどに重きをおき様々な企画運営をさせていただきたいと考えております。

信頼、安心、さらに密度の濃い連携関係を醸成できるよう精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。



大澤 清孝 群馬大学(S61卒)

病診連携室長

副診療部長・内視鏡外科部長

当院認定看護師の紹介

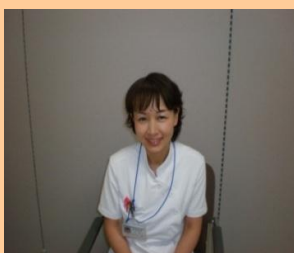
本年、当院では4名が認定看護師を取得し合計6名となりました。今号、次号でそれぞれの看護師や活動内容をご紹介します。

糖尿病看護認定看護師:1名 がん化学療法看護認定看護師:1名 緩和ケア認定看護師:2名
皮膚・排泄ケア認定看護師:1名 集中ケア認定看護師:1名 合計:6名



糖尿病看護とは、糖尿病患者を生活者（糖尿病をもちながら生活する人）としてとらえ疾患の発症、悪化を防ぐと共にその人らしく健やかな生活を継続できるように、生涯続くセルフケアや療養生活を支援するものです。

糖尿病看護認定看護師は「血糖パターンマネジメント技術」「フットケア技術」「糖尿病ケアシステム立案技術」を特化技術とし、生活調整、支援する実践能力、またさらなる糖尿病看護の質の向上を目指し指導、相談活動を展開していくことを責務としています。また、糖尿病看護における役割は一次予防から三次予防まで多岐にわたるものであり、その活動は施設にとどまることなく、地域全体、国民全体がその対象といえます。それらのことから地域医療支援病院においての糖尿病看護認定看護師の役割は大きいと考えられ、今後、研鑽をつみ貢献していきたいと考えております。

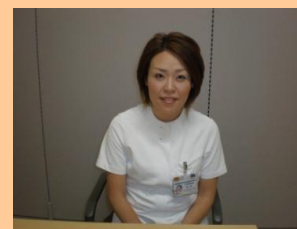


糖尿病看護認定看護師
メタボ・糖尿病治療センター
佐竹 明美

がん化学療法認定看護師は、がん化学療法を受ける患者と家族を支え、安全を守っていくことを使命とします。多くの場合、がんは長い経路をたどり多様な治療を必要とするためがん化学療法看護は、がん化学療法の治療期とその後のフォローアップ期、がん化学療法が治療の選択肢となった際の看護を専門としています。

現在は、化学療法センターで勤務をして抗悪性腫瘍剤の安全、安楽な投与および出現する有害事象を予測して患者様やそのご家族が自宅で対処できるように共に考え関わっています。

今後は地域の皆様からのご相談にも対応していけるようにしていきたいと考えておりますのでご指導のほどよろしくお願い致します。



がん化学療法看護認定看護師
化学療法センター
徳満 葉子